

せたふく No.17

住宅改修 一生活動作の自立・介護負担の軽減のために一

扉を交換すると

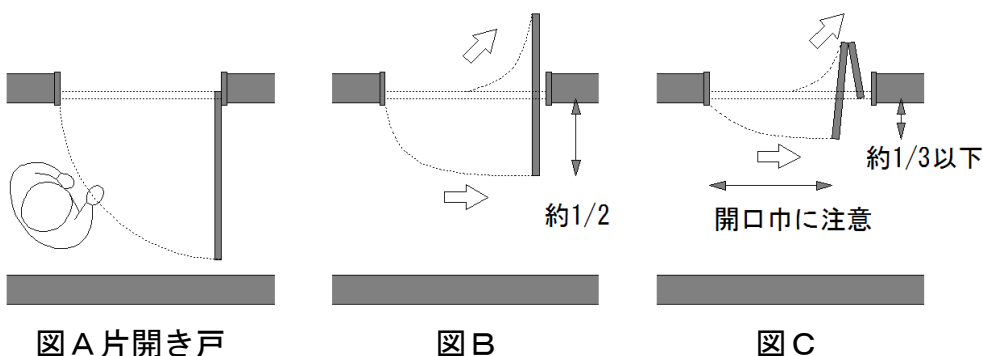
狭い廊下での扉の開け閉め

狭い廊下でのドアの開け閉めに不便を感じることはないでしょうか。ドアを開けるときに人にぶつかってしまったり、物が置いてあるためにドアが完全に開かないケースも多々あります。体を避けながら開閉す

る動作に負担を感じるようになってきたとき、無理なく開閉できる引き戸にするのが一番良いですが、間取りの関係から片開きドアにせざるをえない場合にはどうしたらよいのでしょうか。

いろいろなタイプの扉があります

右図のBは引き込み戸やスライドドアなどの呼び名があります。廊下からのドアの出が通常の扉より半分くらいになるタイプのドアです。体の位置をほとんど動かさずに開閉でき、スペースを有効に使うことができます。



図A 片開き戸

図B

図C

Cの折戸タイプのものは廊下への出が一番少ないですが、折りたたみしろの関係から開口巾が狭くなってしまうので注意する必要があります。

身体状況によっては扉の吊元交換をして右開きや左開きへ開き勝手を変更する場合も介護保険の住宅改修の給付対象になります。使い勝手や予算も含めて良く検討しましょう。

【住宅改修は、適切なアドバイスができる専門家に相談しましょう】



段差が無く、開閉がスムーズなスライドドア

「聞こえない方のためのグループホーム」開設

“聞こえない”ことは外見からは分かりづらく、どのような不便があるか理解されにくいところがあります。音声による情報入手やコミュニケーションが困難なため「情報障害」とも言われています。

世話人さんのサポートを受けながら、安全に自立した生活が送れるように必要な設備が整った定員5名のグループホーム「さぎそうハウス」が9月より世田谷区・烏山に開設しました。

運営はNPO法人世田谷区聴覚障害者協会が行っています。改修費用や備品などは東京都と世田谷区の補助を受けており、設計はせたふくメンバーのYさんが携わりました。



「地域に開かれた住まい」をコンセプトに、今後は入居者による手話教室の開催等、近隣の方々との交流を深めていく予定です。

大型テレビの字幕放送も大切な情報源です。



来客を知らせるインターホンの音が聞こえないため、インターホンを押すとライトが点滅します。個室のロックも同様に押しボタンにより点滅します。



火災時には各所にある補助装置が一齐に赤く点滅します。

また、補助装置は外して懐中電灯としても利用することができます。

講演会のご案内 「介護保険住宅改修のポイント」



世田谷区介護保険住宅改修訪問調査を実施しているせたふくが「良い改修例」と「不適切な改修例」の比較紹介や施工事業者の選び方のポイントについて講演会を行います。10月30日(木)18:30~20:30
成城ホール 参加費無料・事前申込み不要、当日直接会場へお越しください



会員ルーコラム 「相談援助業務について」

私は福祉用具専門相談員という仕事をしています。私自身は、名前の通り業務の本質を「相談援助業務」と思っておりますが、果たしてこの職務における「相談」とは如何なる行為なのか？と一度自問すると、そう簡単には答えが出てきません。

福祉用具（ないし住環境整備）についての相談なのだから、「ご利用者の基本情報と、想定できる福祉用具をマッチングさせる」ことのみを「相談援助業務」と認識してよいのでしょうか？結果的にはそのような形に落ち着くとしても、相談を「ご利用者の情報と支援者の情報を適合させる」という「情報の操作」のみに終始してしまうことは、実はとても危険なことなのではないか？と私は思っています。どんな提案・働きかけをする（しない）にしても、その根底には、ご利用者の、声にならない声に対する気づき・寄り添いが無いことには相談は成立し得ないのではないか？という自問自答を常に繰り返しています。

嗜好品の買い物とは異なり、好き好んで福祉用具を使われる方は多くはないでしょう。その方の人生の、あくまで一過程として訪れた転機。「何がしたいのか？」「何が出来る（出来ない）のか？」等という問いかけも、相談の行われている「今・現在」のみならず、そこにつながる過去（そして未来）等にどれだけ想いを馳せられるか？によって、提案の内容が結果的には同じだとしても、ご利用者が納得される深度に違いが現れるかと思えます。

また、同情ではなく、ご利用者の心に寄り添うということは、どういうことなのか？支援者としての然るべき距離・立ち位置とは如何なるものか？等々、一つ一つのケースで考え実践してゆくしかない問いかけが多々あり、未だに試行錯誤の日々です。

どれ一つとして同じ人生は無いように、どの相談も同じ内容のものはありません。常に柔軟な姿勢と責任感を持って臨みたいと思っています。(N. I)

福祉用具のワンポイント 「おんぶらっく」

緊急時に高齢者や病人をおんぶして階段を下りるのは大変危険です。「おんぶらっく」は素早く装着できて、背負いながら両手が自由になるため、足場の悪い場所や階

段でも安全に歩行できます。背中から臀部までを一体の布面で背負うので背負われる方の負担も少ないです。



本のご紹介「くじけないで」飛鳥新社

作者・柴田トヨさんは、90歳を過ぎてから詩作を始めて101歳で亡くなるまで書き続けられ、昨年ベストセラーにもなりました。トヨさんのお人柄が溢れていて、100年の人生の生き様を感じる一冊です。



住まいの相談承ります

TEL 03-6413-5840
FAX 03-3416-6473

高齢の方、障がいのある方、介護されている方、ケアマネジャーさん
住宅改修、福祉用具、助成金のことについてなど

< 住環境 > 何でもご相談ください。

お気軽に電話またはFAXにてご連絡先をお知らせください。折り返しご連絡いたします。

「せたふく」とは？

NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会の愛称です。

せたふくは建築・福祉・保健・医療などの専門職や介護経験者など多彩なメンバーが参加し
相互に連携を取りながら、地域で自立した暮らしをするためのお手伝いをいたします。

相談事業

一般の方から福祉関係者の方まで
住まいの相談を承ります。

ネットワーク構築

情報交換・交流の場を持ち
他団体と連携をします。

人材育成

勉強会・見学会・調査研究を
進めています。

せたふくは6つの分科会が活動をしています。

- ・ 住宅改修研究
- ・ 世田谷区訪問調査分析
- ・ 高齢者・障がい者と防災
- ・ 住宅相談
- ・ 広報
- ・ WEBバリアフリー

バリアフリー相談のご案内

毎月第1木曜日の10時～13時に北沢タウンホール10階ブースにて無料のバリアフリー相談会を開催しています。ご希望の方は事務局までご連絡ください

せたふく No.17

発行：NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会

発行日：平成26年10月24日

お問合せ：事務局 〒155-0032 世田谷区代沢2-2-23 スタジオ・ヴォイス内

TEL：03-6413-5840 FAX：03-3416-6473

e-mail: setafuku@email.plala.or.jp

<http://www.setafuku.org/>

